自然保護活動優秀団体の表彰にあたって

五味　茂

北海道放送（ＨＢＣ）では、昭和四十八年から●今井の協賛で〝自然保護シール〟の売り上げ金の中から、毎年百万円を自然保護の面で顕著な活動をつづけている道内の小学校やグループに贈り、その活動を助成している。

今年は迎えて第三回。道内各市町村から推せんのあった小学校について、去る十月二十四日、ＨＢＣ自然保護委員会の委員により、応募リポートの審査をおこなった。

その結果、入選校十二校、準入選校五校が昭和五十年度の自然保護活動優秀団体に選ばれた（入選校、準入選校名及び活動テーマは別表のとおり）。

これら入選校に対する表彰式は、十一月七日ＨＢＣ本社でおこなわれ、ＨＢＣ賞として賞状、賞金、楯、記念品が、秋山ＨＢＣ社長から各校代表に贈られ、同時に道知事賞、道教育長賞も各校に贈られた。

〝ＨＢＣ自然保護シール〟について

ところで自然保護活動優秀団体表彰の基盤をなす「ＨＢＣ自然保護シール」について、ここで若干の説明をしてみたい。

ＨＢＣでは、昭和四十八年から〝豊かでうるおいのある環境づくり〟をテーマに、電波や各種の催しを軸に自然保護キャンペーンを実施している。この運動の一環として、広く一般の人々に自然保護に対する意識の啓蒙を呼びかけるため、北海道に棲息する動植物、珍らしい天然記念物などを題材にした小型シート、いわゆる「自然保護シール」三十種類を三カ年計画で発行している。

この自然保護シールは一シート三枚つづりで、現在第九集の発行を終り（五十年十月現在）、五十一年四月には最終シリーズの第十集を発行する予定である。

シールの製造にあたっては、大蔵省印刷局の特別の好意で印刷製造をおこない、学術的には北大名誉教授・犬飼哲夫氏、同じく石川俊夫氏、北大農学部助教授・辻井達一氏、北方鳥類研究所所長・斎藤春雄氏らの鑑修を得た。

この活動は道をはじめ、道教委、道自然保護協会、全道小学校長会など関係各方面の協力を得て実施され、シールの売り上げ利益金の一部を自然保護活動に、とくに優れた小学校あるいはグループへ助成金として贈っているものである。

活動著しい小規模校

さて、今年入選した各学校の傾向といったものを概括してみよう。

今回の応募校は、総体的に活動内容が平均化していることがその特徴としてあげられる。一昨年、昨年は、いわゆる道内でも自然保護に関してはとくに全道的にも名を馳せている学校、たとえば鶴居村立下雪裡小学校のタンチョウの保護活動（四十八年入選）や、札幌市立藤の沢小学校の小鳥の村の運営（四十八年入選）などが目立った。

これに対して今年度は、とくに飛び抜けて活動がいちじるしい学校もない反面、とくに劣っているとみられるものも少なく、長期間にわたり地味な活動をつづけているといった傾向が多くみられた。

地域的にみると、都市の中にある学校は極めて少なく、ほとんどが都市を離れた、いわゆる地方の学校の活動が活発であるこ

乙部町立明和小学校
工作クラブの児童たちは、木工場から買った板材で小鳥の巣箱を作る

とは、従来の傾向と変っていない。これは地方の学校が自然環境に恵まれ、その環境を容易に利用できる状態にあるからだともいえよう。

入選校十二校を学校規模からみても、生徒数が百名以下の学校が六校で、その半数を占め百名から五百名が二校、五百名以上が四校という割合になっている。

この数字からみると、辺地にある小規模校が自然保護活動に熱心であり、恵まれた自然環境と相まって、人員的にも活動しやすい状態にあることがあげられよう。

今回入選した豊富町立芦川小学校は、児童数七名、教諭は校長を含めて三名というサロベツ原野の山間地帯にある過疎の学校である。ここでは四十六年から環境整備五カ年計画を立て、学校花壇の造成、動物飼育小屋の設置、野鳥の巣箱作りなどを実践し、児童の情操教育、生活指導の面で、その効果がはっきり表われてきているという。この裏には、児童だけでなく、教諭、地域住民の三者が一体となって努力した実績があり、これが好結果をもたらしたということができよう。

北見市立常川小学校も生徒数十三名という代表的な僻地校。昭和二十八年以来、二十年以上も野鳥愛護運動をつづけている。この学校はマンネリ化した愛鳥運動に一段の奮起を呼びかけ、従来の実践活動に反省を加え、四十七年から年次別に目標を決めて野鳥保護活動をより一層深めている。巣箱の形と色と営巣の関係（四十八年の目標）、巣箱の高さと鳥の種類（五十年の目標）など、極めてユニークな実践活動がつづけられている。

以上のように、小規模校の活動はその環境条件に加えて、人員的にも少人数でまとまりのあること、熱心な指導者がいること、さらには地域住民の協力が積極的であること、など種々の条件が合致して、最大の効果をあげ得ることができた、といえよう。

悪条件克服に努める大規模校

前述の辺地の小規模校に対して、都市部に位置する大規模校の場合も、これまた並々ならぬ努力がつづけられている。

江別市立大麻小学校は生徒数九四〇名という大規模校、札幌のベッドタウンとしての住宅地の学校で、決して自然環境に恵まれてはいない。ここでは限られたスペースを有効に使い、水生動植物園や小動物飼育小屋を設け、それを観察することで新鮮な驚きや喜び、悲しみをつづった「理科作文集」を発行、動植物への愛情が子供たちの心に大きく育ってきているという。

昭和四十六年に開校した大麻西小学校も同じ住宅団地に位置している。ここも草木の全くなかった重粘土質の学校の周囲を、緑と花いっぱい運動の実践で着実に自然保護の成果をあげている。今年は一人一鉢栽培に力を入れ、自然保護活動と学校教育を有機的に結合させている。

これら都市の学校にみられるのは、辺地校の場合のように、現存する自然を利用して、自然保護を実践するのではなく、コンクリートの固まりにはさまれたわずかな場所を有効に使い、自然を造り出す、という方法で自然保護思想の啓蒙をはかり、人間と自然とのかかわりあいを教育の面にとり入れる努力が払われているということである。

都市化が進む現代社会で、こうした動きが都市部の学校に増えつつあることは大いに歓迎すべきことで、これらの学校が他の学校に多大な影響を及ぼすことを期待したい。

継続性のある自然保護活動を

すべての自然保護活動にいえることであるが、この活動は長期にわたる努力があってこそ実績があがるものであることはいうまでもない。とくに学校におけるそれは、よくいわれることだが、その先頭に立つ教諭の熱意の高さが、すぐにその学校の自然保護活動に影響を及ぼすといわれる。従来活発な活動を続けていた学校が、担任の転校で急に活動がにぶった、という話をよく耳にする。今回入選した学校には数十年の学校林の保護育成や、数カ年の目標を立てて重点的に実践活動をしている学校が多く目についた。このように長期にわたる継続した活動があってこそ、大きな成果が得られることを今回のキャンペーンは示唆している。

HBCテレビで毎週日曜の朝十一時から放送している番組に、「兼高かおる世界の旅」がある。この番組は放送開始以来十年以上もつづいている長寿番組で、世界各国の自然や生活文化などを紹介するドキュメンタリー番組。この中でリポーターの兼高かおるが、この十年間世界中を飛びまわって最も印象に残る言葉としてあげたものは各国の生活や文化でもなく立派な建造物でもない。ただひとことでいうと〝自然の偉大さ〟に尽きる、という。

自然破壊が叫ばれて久しいが、北海道は全国的にみても、まだ人工の手が加えられている地域が少なく、いわゆる〝自然度〟が最も高いといわれている。

この自然に耳を傾け、自然に語りかけ、自然に心から感動し、自然を大切にする子

供たちが、今回の自然保護キャンペーンを　まない。

契機に一人でも多くなることを期待してや

（北海道放送テレビ営業推進部）

〔別　表〕

昭和五〇年度自然保護活動優秀団体

〈入　選〉

No.	学校名（校長）	活動テーマ	活動内容
1	爾志郡乙部町立明和小学校（校長　米津　正芳）	自然に親しむ会の活動	六〇年にわたる愛林活動と巣箱かけ、野鳥の観察、傷ついた小鳥の治療などの愛鳥活動
2	三笠市立三笠小学校（真田　七郎）	愛鳥教育の実践	小鳥の村を中心に、巣箱かけ、観察記録などによる愛鳥活動
3	北見市立常川小学校（真如　昌臣）	野鳥保護活動	野鳥の種類の調査、巣箱作り、観察記録などを年次別な計画で実施
4	勇払郡早来町立早来小学校（山田　清一）	学校植林による自然保護活動	三〇年におよぶ学校林の保護育成による愛林思想の普及活動
5	登別市立富岸小学校（中川　光夫）	野鳥保護と野草園作り	野鳥の巣箱作りなどによる愛鳥活動と野草園づくりによる自然保護実践
6	網走市立北浜小学校（松吉　克己）	野鳥保護活動	涛沸湖の白鳥の飛来状況調査、観察記録の作成、保護活動の実践活動
7	千歳市立支笏湖小学校（阿部　一郎）	動植物の愛護活動	支笏湖の環境整備、野外観察、巣箱かけなどによる自然愛護活動
8	江別市立大麻小学校（野崎　武男）	理科教育を中心にした自然保護活動	樹木園、小動物飼育などを通じて理科作文集を発行、動植物愛護の実践教育を推進
9	滝川市立滝川第一小学校（斎藤　富男）	自然総合学習における学校林の保護と利用	四〇年を経た学校林を利用して自然と人間とのかかわりについて考える自然総合学習の実践
10	上川郡比布町立蘭留小学校（安斎美恵子）	小鳥の村による愛鳥活動	学校林に設けた小鳥の村の管理を中心にした動植物の愛護活動
11	天塩郡豊富町立芦川小学校（榊　隆三）	野鳥保護を中心とした動植物愛護活動	巣箱作りと野鳥の観察、小動物飼育、花づくりなどの自然保護活動
12	江別市立大麻西小学校（三浦　興三）	緑と花いっぱい運動による自然保護活動	一人一鉢運動をはじめ、緑化事業と飼育栽培を通しての動植物愛護の推進

〈準入選〉

No.	学校名（校長）	活動テーマ	活動内容
1	釧路市立桂恋小学校（小西　由雄）	学習園の設営	植物教材園の造成による栽培観察などによる学習活動
2	室蘭市立絵鞆小学校（小室　松次）	愛鳥クラブの活動	巣箱かけ、営巣調査など野鳥愛護運動の推進
3	苫小牧市立若草小学校（両川　吉弥）	学校環境緑化活動	学校中庭の樹木園の活用、植生園小動物飼育などの自然保護活動の実践
4	古宇郡神恵内村立神恵内小学校（相馬　幸吉）	自然保護運動と社会奉仕活動	青少年旅行村、海水浴場の環境整備作業と動植物の愛護活動
5	岩見沢市立稔小学校（多奈田悦久）	花いっぱい運動による自然保護活動	学校花壇、一人一鉢運動などによる情操教育、自然保護活動の実践

〈順不同〉

なお、今年応募し、惜しくも入賞を逸した小学校とテーマは、浦河町立浦河小学校（野鳥の愛護活動）、大成町立平田内小学校（小動物飼育による動物愛護活動）の二校であった。今年度の選考にあたった審査員は次の通り。（出席者のみ）

〈審査委員〉

北大名誉教授　犬飼哲夫

〃　石川俊夫

北海道北方鳥類研究所々長　斎藤春雄

北海道自然保護課課長補佐　俵浩三

北海道教育庁文化課長　工藤欣弥

全道小学校長会代表　菅原末吉

北教組書記長　町田治大

㊫今井本店取締役営業本部長　清水逸平

HBCテレビ営業推進部長　斎藤昭夫